

校長室だより～ロングビュー紀行 第7号 H29.9.4

埼玉県立和光高等学校 校長 村田 達

第6日目 8月25日(金)

1980年(昭和55年)5月、アメリカ東海岸カスケード山脈のセントヘレンズ火山が大噴火をした。前世紀最大の火山活動と言われている。私は、和光高校の地理の教員として教師生活をスタートしたところであった。地理の授業は地形から始まる。古期造山帯と新期造山帯を教え、新期造山帯はアルプス・ヒマラヤ造山帯と環太平洋造山帯があり日本列島もこの一部であり、だから地震と火山が多いのだ。という時期に起こったまさに大きなニュースだった。生徒達にも話はしたがまさに彼岸の火事。そしてまさかの37年後の訪問となる。実質訪米最終日となるこの日の朝、ホテルまで迎えに来てくださったのは、すべての企画から手配に至りお世話になった姉妹都



市委員会のアイリーンさん。ご主人であるマークさん運転の斯巴ルSUVでさっそうと登場された。お二人とも70歳であられるが本当にかっこいい外国人。そして恐縮である。ロングビューを後にし、5号線を北上。キャッスルロックからは東方山脈部へ舵を取り一路Mtセントヘレンズを目指すこととなった。



最初に立ち寄ったのはシルバーレイクビジターセンター。ここで森林再開発のための基金を納める、映画やジオラマなどで予習。想像をはるかに超える大惨事であったことを知る。整備された道路は快適ではあるが、噴火の影響がいまだ残る寂しさが加わる。出発から3時間半経過の12時となり、堰止湖であるコールドウォーター湖畔でランチ。夏とはいえ涼しい木陰でのピクニックは良い思い出となった。沢山の気を使っただき本当に優しい素晴らしいご夫婦である。楽しいランチの後は目的地であるジョンストンリッジ展望台へ向かう。火山の観察を最期までこの地で行い、噴火に巻き込まれ亡くなった研究者の名前が由来である。ここで見た映画はとんでもない迫力で言葉の壁を越えて当時の被災状況と復興に賭ける熱意が響く。自然の驚異と立ち向かう人間の姿を理解するには十分すぎる内容であった。終了後スクリーンが上がり現れる雄大な山容は感動を与える。必見である。



感動を背にロングビューに戻ると、ご夫妻のご自宅に招いていただき夕食を御馳走になった。バレーボールコートもあり野生のシカも現れる広い庭をウッドデッキから見下ろしながら食べるアイリーンさん手作りの夕食が美味しくないわけがない。お二人ともかつてはローワーコロ

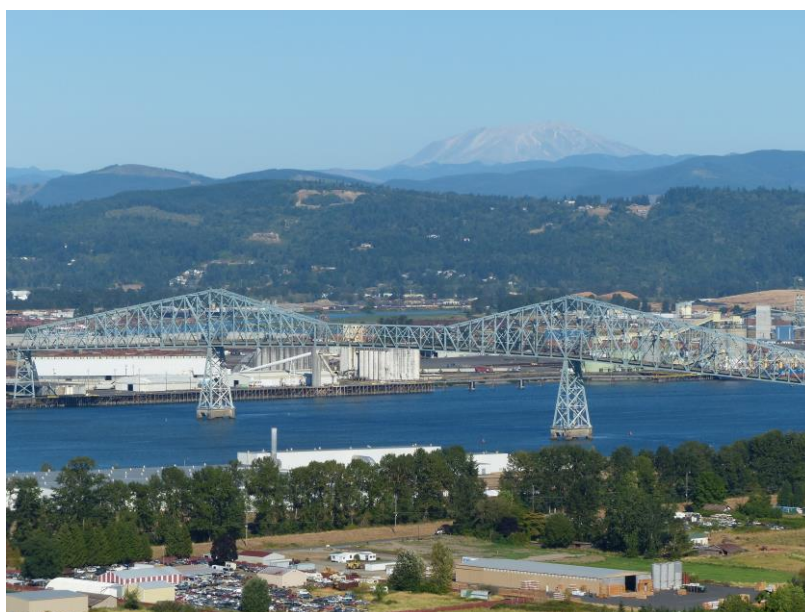


ンビア大学で教鞭をとられていたとのこと。三人の子供たちは既に独立され（前述したバスケット選手の息子さんは現在デンバーで大学のコーチをされている）悠々自適のお二人の生活。羨ましい限りである。コミュニケーションには、優れた英会話力は必ずしも必要ないと勝手に感じていた。締めくくるのにふさわしい素晴らしい一日となった。



ご自宅に戻る途中に寄っていただいたロングビュー市をコロンビア川対岸（すでにオレゴン州）から見た景色。はるかに見えるのがマウントヘレンズ。噴火により山の上四分の一が吹き飛びその噴煙は地球を二周以上したそうだ。

川岸は木材の集積場となっており大型貨物船が入り込み日本に輸出されている。忘れかけている地理の教師としての視点が蘇った。素晴らしい教材である。日本資本の製紙会社もあり、街中を走る車はトヨタ・ホンダ・スバル・レクサスなど日本車が溢れている。三時間位授業が出来そうだ。



明日はいよいよ帰国の旅。長いようで短かったロングビュー紀行であった。多くの方に感謝し再びお会いできることを期待しています。

おしまい